

可茂農林事務所の普及活動状況（令和8年6月30日現在）

新たな担い手の確保

■水稲 「田んぼの学校」でトラクタ、田植機の実践体験

アグリパーク重点推進モデル実践事業を実施している美濃加茂市の「株式会社やまのはたへ」では、稲作初心者を対象とした「田んぼの学校」を開催している。

6月は3回開催され、トラクタでの耕起作業、代かきや田植機による移植作業、手植えによる補植作業やチェーン等を使用した除草作業の体験が行われた。

農林事務所は、育苗から田植後1か月までの病虫害対策や水管理について講義を行った。参加者の多くは、農業機械の操作が初めてであったが、講師の安全講習と丁寧な指導により、楽しみながら作業に取り組んでいた。実際の稲作作業を体験することで、稲作をより身近に感じている様子がうかがえた。

「田んぼの学校」は11月まで開催され、農林事務所は、引き続き講師を務めるなど開催支援を行っていく。
(地域支援第一係)



【初めての田植機での作業】

■集落営農 七宗町 新たな営農組織の立ち上げに向けた会議の開催

七宗町では、農業従事者の高齢化による耕作放棄地の増加が懸念されている。現在は既存の2組織が一部地域の水田営農を担っているが、さらなる面積拡大は難しくなっているため、6月24日、ぎふアグリチャレンジ支援センターの経営支援専門員を招き、町の素案について検討を行った。

農林事務所は、管内の農業法人の形態や経営面積、構成員数等の事例を紹介し、先進地視察等による情報収集を促した。

今後、営農組合設立に向けた準備委員会の立ち上げ、先進地の情報収集、関係機関との連携も図りながら、設立に向けた活動を支援していく。



【会議風景】

(地域支援第二係)

潜在力をフル活用した生産強化

■JAめぐみの水田担い手協議会みのかも支部 「清流のめぐみ研究会」が設立

美濃加茂地域では、今年度から県の奨励品種となった「清流のめぐみ」を8経営体が13.5ha栽培している。「清流のめぐみ」は、高温に強く、倒伏しにくく、食味値が高いといった特徴を持っており、生産者らは地域のブランド米として期待を寄せている。

農林事務所では、昨年「清流のめぐみ」の産地化を目指し、試験栽培や本格導入を生産者へ提案するとともに、生産者間の交流の場として「清流のめぐみ研究会」の設立をすすめてきた。

6月26日に同研究会が設立し、農林事務所から提供した試験栽培の生育状況等をもとに、生産者間での意見交換が行われた。

農林事務所は、引き続き技術指導や、地域に適した施肥設計の検証等の支援を行っていく。

(地域支援第一係)



【清流のめぐみ研究会のメンバー】

安心できる農畜水産業と農村の環境整備

■夏秋トマト・美濃白川夏秋トマト部会 令和8年産美濃白川夏秋トマト目揃会

白川町・東白川村の夏秋トマト生産農家で組織する「美濃白川夏秋トマト部会」では、令和8年産トマトの出荷が6月下旬から始まった。前年産は、高温の影響により全国的に品薄となる中、高品質なトマトの出荷を長期間継続したことで、市場から高い評価を得た。今年産は病虫害の発生が少なく、生育も順調であり、好調なスタートを切っている。



【目揃会開催の様子】

7月2日には、出荷基準や選果方法を再確認するための目揃会が開催され、農林事務所は農薬の適正使用や高温対策、収量増加に向けた栽培管理について研修を実施し、生産者の良品生産に対する意識向上を図った。

現在、同部会ではこれまで培ってきた高温対策技術を生かし、収量増加を目指している。農林事務所は、引き続き安定出荷に向けた技術支援を行っていく。（園芸産地支援係）